

令和8年度

徳島市 南部中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○本校の教育目標である「確かな学力」を定着させるため、基礎基本の徹底と授業内容の充実を図る。各教科において具体的な目標設定と具体的な授業対策を実施する。

校長

吉成 文敬

学力向上推進員

総括(学校長) 吉成文敬
担当主任 指導助言(教頭)石丸千代 谷真紀子 志内彰宏
委員(学力担当) 金子真規
委員(研究担当) 宮本大輔 若山美香 岡ひとみ 蔭山直子

【小中連携における共通の取組】

学習のめあてや達成目標の提示提案。学習の振り返りやまとめ時間の充実。「確かな学力」定着に向けて、基礎基本の知識の定着に注力した授業内容の構築・実践。

【各校の取組状況の把握について】

学力向上委員会を実施し、各学年・各教科担当から課題を集約する。具体的な対策について委員会で検討し、実施につなげていく。校内研修を行い、学力向上へつなげる具体策について検討する。アンケート調査を行い、生徒の実態や保護者の意見を参考に検証を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○知識・技能の定着や習得に関して、前向きな態度で学習にむかっている生徒がほとんどである。 ●基本的な知識理解・公式の活用などに課題が残されている。 ●内容の読み取りや解答へたどり着くためのパターンの習得にあたり、理解不十分な状態となっている。	・学習過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付いた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。 ・学習した知識・技能を活用し、学習や物事に対して、正答を導き出す行動ができる。	・基礎基本の定着にむけ、ミニテスト・反復ドリル・書き取り練習など、各教科の特性にあわせた取り組みを行う。 ・生徒に興味関心を持たせる授業内容の向上、学力定着にあたり、わかりやすく説明し、伝達できる教授法の向上を図る。 ・「聞く」ことを重視させながら、物事の意図や真意を感じ考えさせる授業に取り組む。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。 ・学力向上委員会での検討課題について、具体的な戦略を立て、課題を検討する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えや意見を表現することが好きな生徒も多い。 ○課題に対して、自分なりの思考を繰り返し、物事に取り組む生徒も多い。 ●課題や情報に対して、受動的な態度や消極的な態度で授業に参加している場面がある。 ●自分の意見や判断に自信がなく、他の人の意見に同調したり、自己表現できない場面がある。 ●自己中心的であったり、内向的な思考がある生徒も多い。 ●自らの知識を物事と照らし合わせ、思考しつつ、解答を表現する問題に課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。 ・他の人や教職員の言葉に耳を傾け、自己の考えとともに、物事の真意にむかい、行動表現できる。 ・自らの考えや意見を俯瞰して考え、内容を振り返ったり、まとめたりできる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動を取り入れる。 ・学級活動・学年集会・学年行事・学校行事などで、生徒の意見や表現できる機会をつくる。 ・スモールステップでのドリル学習や反復学習に取り組む、段階的に知識・技能を習得できるようにしていく。 ・「確かな学力」定着にむけた現実的な課題の提案と継続的な学習に取り組む。 ・生徒の実態にあわせ、柔軟性のある年間計画・授業計画にも取り組む。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた授業に参加することができている。 ○概ねの生徒が、課題に対して、クリアしていくことを責務として感じることができている。 ●理解度や習熟度が低い生徒も多く、授業に対して消極的な場面が見られる。 ●学力向上に対して、真摯に受け止められている生徒と、未成熟な生徒との差があり、授業態度に差が見られる。 ●質問することや意見することに消極的であり、自己肯定感や自己表現に対して、課題が残っている。	・学習に対して主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。 ・生徒の積極的な授業参加を目指し、生徒自身が、考えや意見を忌憚なく表現できる。 ・物事に興味関心を持ちながら授業に参加し、知識・技能の習得に積極的な姿勢で取り組むことができる。 ・未来に向かって自ら努力し、探求を深め、確かな学力をつけていく取り組みができる。	・授業内容・授業展開に工夫し、生徒に興味関心を持たせることができる。 ・課題に対してわかりやすい説明や解説を行う。 ・ICT器械の効果的な活用を考える。 ・実験・実習など体験的な活動を取り入れる。 ・基礎基本の知識・技能を習得させられるようミニステップ学習や授業内容の配分を考える。 ・学力を向上させていく良さや意味を教え、自ら計画的に行動できるよう指導助言する。 ・課題や目標・未来に向かって、継続的に取り組みを重ね続けることができるよう指導助言する。			